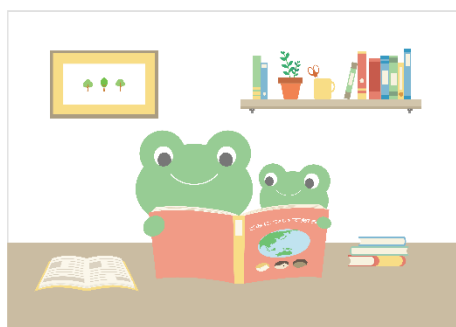


ワークショップ教材
『挑戦！ごみゼロ生活』

WS1：ごみについて知ろう



Copyright © kaeru+ project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

ワークショップを始める際の「表紙」としてのスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

任意の方法で場づくりをお願いします。

今回のテーマ

環境

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

今回のテーマを発表するスライドです。ここで、子どもたちに「“環境”をテーマにした仕事って、どんな仕事だろう？」と軽く考えさせます。

<ファシリテーションのコツ>

「何だと思う？」などと子どもたちに問いかけてみて、反応（の良さ）に応じて数名に当てさせたりしても良いでしょう。「何だろう？」という思考を子どもたちに持たせた上で「環境なのですが、次の仕事に挑戦してもらいます。」と話して、次のスライドに進みます。

「コンサルタント」という仕事

に挑戦します



Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

今回のテーマとなる「仕事」を発表するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

知らないことを前提として、「コンサルタントって知ってる人〜?」「コンサルタントってどんな仕事だと思う?」「この写真の人、何してるかな?」などと問いかけましょう。「知らない」が多いと思いますが、写真を見て予測して答えてくれる子もいると思います。子どもたちと対話をしながら、「コンサルタントはね...」と言って、次のスライドに進みましょう。

コンサルタントの仕事とは 分析する ⇒ 提案する



Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

コンサルタントの仕事を一言で解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

基本的には「コンサルタント」を知っている子は少ないので、簡単に言うとどんな仕事なのかを解説してください。たとえば、「誰かが困っていること似ついて調べて、『〇〇〇なので △△△したほうがいいですよ!』と提案する仕事だよ。」というイメージです。その上で、「いい提案をするためには、分析することが必要なんだけど、分析ってどうすることかな?」などと次のスライドにつながる問いかけをしていきましょう。スライドのイラストを使って、「この人、なんか図を指差してるよね!」などと触れながら進めても良いと思います。

特に大事なのは きちんと分析すること

**複雑な事柄を一つ一つの要素や成分に分け、
その構成などを明らかにする**
(三省堂「国語辞典」での『分析』の意味)

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「分析すること」について解説するスライドです。

<伝えたいメッセージ>

「誰かに提案をするには（orコンサルタントの仕事には）、きちんと分析することが大切！」

「分析とは、複雑なことを1つ1つに分解して、分かりやすくすることだよ！」

<ファシリテーションのコツ>

上記のメッセージおよび解説を伝えた上で、「分析するの好きな人〜?」「最近、分析したものとかある?」などと徐々に対話を広げていきましょう。「提案するのって、人が思いつかないようなアイデアを出す力がすごく必要そうだけど、実はコツコツ『分析』をすることが良い提案につながるんだよ!」などと、分析することの重要性を伝えてください。具体例として、日常生活の例を挙げて話ができるとう効果的です。

身の回りから環境を良くしよう！



君の分析と提案にかかっている！

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

子どもたちを「環境改善活動」に誘い込むスライドです。

<伝えたいメッセージ>

「環境について考えるときは、身の回りのことから取り組むことが大事！」

<ファシリテーションのコツ>

子どもたちのワクワク感を引き出すイメージで進行しましょう。「これからの地球は、みんな一人ひとりの分析と提案にかかっているからね！」と伝え、やる気を引き出してあげてください。

アイスブレイク 何個あるかな？

この部屋にある〇〇の数を正確に計測しよう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

アイスブレイクのためのワーク『何個あるかな?』に入るスライドです。

<進め方>

次のスライドからお題（例）が2つ用意されているので、それぞれについて下記のように進めてください。

- (1) まずは、教室内にそのモノがいくつあるかを個人で数えて回る。（※講師は制限時間を提示）
- (2) 早く終わった人から、種類別に数えてみる。
- (3) 数えた結果を全体に発表する。（※複数名に聞いた上で、あとは個数を言って挙手制）
- (4) 種類別に数えた人は「どんな種類に分けて数えたか」を発表する。（※講師が何名かに聞く）

<ファシリテーションのコツ>

「これから、この部屋にある“何か”をみんなに正確に数えてもらいます。お題はこれから発表するので、○分以内に“正確に”数えてください！」と進行し、次のスライドへいきます。

お題①

「イス」何個あるかな？

種類別にも分類してみよう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

アイスブレイクのお題1つ目を発表するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「早く数え終わった人は、イスを種類別に分けて数えてみましょう！」と伝え、ワークを始めてください。総数だけを数える人、総数を数えた後に種類別で数え直す人、種類別に把握しながら総数を数える人など、やり方はバラバラになっていても構いません。子どもたちの好きなようにやらせてみてください。

お題②

「ペン」何本あるかな？

種類別にも分類してみよう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

アイスブレイクのお題2つ目を発表するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

基本的にはお題①の進め方と同様で構いませんが、ペンは子どもたちの私物も多くなるため、子どもたちの持ち物で混乱が生じそうであれば「お互いのペンが分からなくならないように散らかさずに数えよう！」などと促しましょう。そもそも、数えるためにペンを持つ子も多いので、人と人の関わりが強くなるお題です。

イスは十分ある？ ペン足りる？

数・量を**正確に**計測しないと
対策は立てられない（＝分析できない）

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「正確に計測すること」の重要性を伝えるスライドです。

<伝えたいメッセージ>

「数や量を正確に計測しないと、対策は立てられない（＝分析できない）！」

<ファシリテーションのコツ>

「たとえば、今日は○人のみんなが参加してくれているけれど、このクラスが始まる前に“人数”と“イスの数”を正確に数えておかないと、イスが足りない！ってことになっちゃうかもしれないよね。」などと、身近な具体例を出して解説するようにしましょう。

今回みんなが分析する テーマは

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

分析するテーマを発表するための振りのスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

次のスライドもヒントを出すスライド（≒振り）なので、スライドをそのまま読んで注目を集めるだけでOKです。



Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

分析するテーマをイラストで表したスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

前スライドからこのスライドに移り、「これです！」という感じで進めましょう。このイラストを見れば、子どもたちの誰かが「あ、分かった！ ごみだ〜！」などと発言し始めるといいます。自然に発言が上がらなければ、スライドを指差して「これ何だろう？」と問いかけて発言を促しましょう。

今回のテーマ 「ごみ」

ごみについて分析をして
ごみ量削減に取り組めます！

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

今回のテーマである「環境」を「ごみ」へと絞り込んで、改めて発表するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「今回のテーマは『ごみ』です！」 「みんなにはこれから、『ごみ』について分析をしてもらって、ごみ量削減に取り組んでもらいます！」と元気よく発表し、子どもたちを盛り上げましょう。

 PART1 

ごみって何？

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみについての知識を広げる」パートに入っていくためのスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「ごみについて分析すると言っても、そのためにはまず、『ごみ』についていろいろなことを“知る”必要があるよね！」などと解説し、次のスライド以降の内容に進んでいきましょう。また、この問いについては、次のスライドで考察する時間を取るため、このスライドはパートの区切りとして使うだけでOKです。

「ごみ」って何？ どんなもの？

思いつくものを付箋に
たくさん書き出してみよう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみて何？ どんなもの？」というテーマで考察するためのスライドです。

<進め方>

- (1) 個人ワーク：「ごみ」の具体例として思いつくものを付箋1枚に1つずつ書き出す。
- (2) 全体共有：自分が書いた「ごみ」を発表する。（※講師が、3個/人くらいずつ発表するように促す）
- (3) この付箋は後のワークでも使うため、取っておく。（※講師が指示する）

<ファシリテーションのコツ>

後のワークでは、この付箋を使ってごみの「分類」を考える作業を行うため、とにかく「数」を出させることがポイントです。また、付箋1枚につき2つ以上のごみを書き出してしまくと、分類作業ができなくなってしまうため、「付箋1枚に1つ」ということは確実に伝わるように進めてください。発表の際は、序盤は1つずつ丁寧に聞いていき、徐々にスピードアップして「数」を重視して場に挙げていきましょう。

<配布物>

- ・サインペン : 1本/人
- ・付箋 : 1束/島

「ごみ」と「廃棄物」 はどう違う？

違うと思うところを考えてみよう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみ」と「廃棄物」の違いを考えるスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

まず、「廃棄物」という言葉が少々難しいため、「この言葉、知ってる人～？」などと問いかけて、子どもたちの認知度合いを確認しながら進めていきましょう。とはいえ、「廃棄物」の言葉の意味を解説してしまっただけではこの問いかけが成立しづらくなるため、「廃棄物」という言葉から想像してもらいながら、「違い」に着目してファシリテーションするように心がけましょう。「言葉の印象はどう違うかな？」「どっちが、みんなの生活に身近かな？」などと問いかけながら、対話を深めていってください。

二種類の「廃棄物」

▼産業廃棄物▼

主に工場や農場、建設現場などででるもの

▼一般廃棄物▼

主に家庭やオフィス、飲食店などででるもの
(=ごみ)

<スライドの位置づけ>

「ごみ」と「廃棄物」の違いを解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

詳しい解説は次のスライドのほうが分かりやすいため、このスライドでは「2種類の廃棄物があって、そのうちの生活面での出る廃棄物（＝一般廃棄物）をごみと呼ぶこと」だけ伝えられればOKです。整理の仕方は次のスライドで解説しましょう。

一般市民が出す廃棄物が「ごみ」



※1：一般廃棄物のうち、爆発性、毒性、感染症その他の人の健康または生活環境に係る被害を生ずる恐れのあるもの
※2：燃え殻、泥、汚油、腐敗、腐アルカリ、炭プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣（さ）、動物希形不用品、ゴムくず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん、輸入された産業廃棄物、上記の廃棄物を処分するために処理したもの
※3：産業廃棄物農地、爆発性、毒性、感染症その他の人の健康又は生活環境に係る被害を生ずる恐れがあるもの
資料：環境省

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみ」と「廃棄物」の違いを解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「細かくいろいろと書いてあるけど、簡単に言うと『一般市民が出す廃棄物がごみ』です！」と端的に伝えましょう。その上で、ツリー図をたどりながら右上のほうへ解説を進めていきましょう。「可燃ごみとか不燃ごみとか粗大ごみとか、聞いたことあるよね？」などと問いかけ、自分たちの生活に身近なものが「ごみ」であるということを認識させるように進めていってください。

「廃棄物」の中の 一般の「ごみ」の 割合は？

どれくらいか予想してみよう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

廃棄物の中の「ごみ」の割合を予想するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「世の中で出る廃棄物の中で、一般市民が出す『ごみ』って、どれくらいの割合かな？」と問いかけます。ただし、割合をちゃんと理解して答えられる子ばかりではないため、「半分よりも多いと思う人～?」「半分よりも少ないと思う人～?」「ほとんど『ごみ』だと思う人～?」「『ごみ』はほんの一部だと思う人～?」などと目安をつくってあげながらファシリテーションできると良いと思います。「当てたい!」という感情をうまく引き出しながら問いかけられるとさらに良いです。



ごみは廃棄物全体の10分の1 こう見ると少なそう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

前スライドの答え (= 「産業廃棄物」と「一般廃棄物」の割合) を提示するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「こうやって見ると少なそうだね～」としながらも、「でも、みんなの普段の生活の中で『ごみ』ってたくさん出てるよね？ そう考えると、『ごみ』が少ないというよりも『廃棄物』ってものすごい量なんだね！」などと解説しながら、「量」についてのイメージを子どもたちに考えさせるようにファシリテーションしていきましょう。その上で、「まずは圧倒的に多い『産業廃棄物』についてみていこう。」と伝え、次のスライドへと進んでいきます。

「産業廃棄物」の中には 何が多い？

工場や農場、建築現場からたくさん
出るものを予想してみよう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.

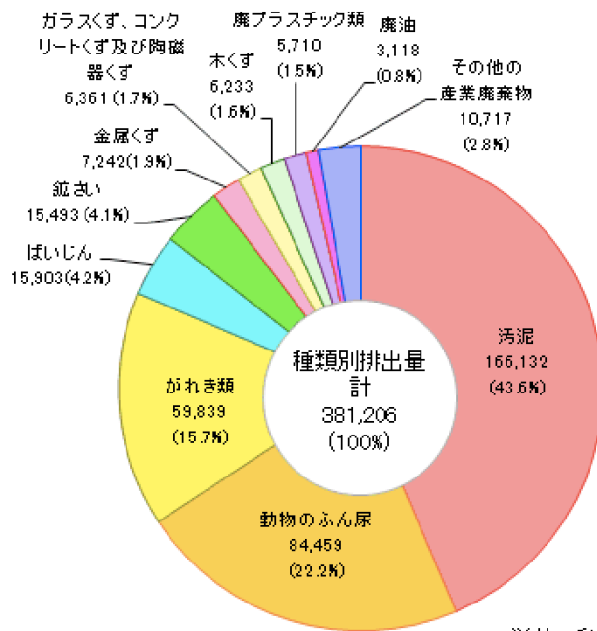


<スライドの位置づけ>

「産業廃棄物」の中で何が多いかを考えるスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

子どもたちにとっては身近ではないテーマなので、うまくヒントを出しながら進めることがポイントです。「○○（たとえば、車）の工場だと、どんな廃棄物が出るかな？」「野菜を育てる農家からは、どんな廃棄物が出るかな？」「牛とか豚とかを育てている農場からは、どんな廃棄物が出るかな？」などと問いかけ、具体的な情景のイメージが浮かぶように進めると、子どもたちも考えやすくなると思います。



単位:千トン/年

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.

出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等（平成23年度実績）について」



1位
汚泥

2位
動物の
ふん尿

3位
がれき類

<スライドの位置づけ>

「産業廃棄物」の内訳を解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

1位の「汚泥」よりも、2位の「動物のふん尿（主に農業）」や3位の「がれき類（主に工業・建設業）」のほうがイメージが湧きやすいため、それらを中心に概要を解説していきましょう。「汚泥」については、以下の情報を参考にしながら、必要に応じて紹介する程度で進めると良いと思います。

<参考情報>

汚泥とは、「工業廃水等の処理後に残る泥状のもの」「各種製造業の製造工程において生ずる泥状のもの」を指す。実務上は、廃触媒やドロドロになった軍手等を汚泥として排出している場合もある。これらは「有機性汚泥」と「無機性汚泥」に大別され、その含有成分によって、金属原料化・セメント原料化・コンポスト化などの再資源化の方法がある。

みんなはどのくらい ごみを出している？

1日の「平均」を予想してみよう
何と一緒の「重さ」かな？

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

自分たちが普段の生活でどれくらいごみを出しているのかを考えるスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「1日で1人あたりどれくらいごみを出してると思う？」と問いかけた上で、「多い日と少ない日があると思うけど、平均して（真ん中くらいの量は）どれくらいかな？ 重さで予想してみよう！」など、考え方を整理してあげるようにしてください。重さの感覚を持っている子どもは少ないので、何名かから予想が上がったら次のスライドへ進んでいきましょう。

958グラム (約1キログラム)



ペットボトル
2本分くらい

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

1人が1日あたりに出しているごみの量（平均）を提示するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「予想より多いかな？ 少ないかな？」などと問いかけ、考えさせるようにファシリテーションしましょう。その上で、できるかぎり「多い」というニュアンスになったほうがこの後の取り組みが生きるので、「1年間で考えたら350kgもごみを出してるってことだもんね。」などと考えを広げてあげても良いと思います。

「ごみ」の種類って？

最初にたくさん出したごみ（付せん）を
いくつかのグループに分けてみよう

どんなグループがいいか考えて
グループの名前もつけてね！

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

ごみの分類について考えるスライドです。

<進め方>

- (1) 「『ごみ』って何？ どんなもの？」で書き出した付箋を準備する。
- (2) グループで付箋を持ち寄って、似たもの同士を集める。
- (3) いくつかのまとまりに分けることができたなら、それぞれのまとまりに名前をつけて線で囲む。
- (4) グループごとのアウトプットを発表し合う。

<ファシリテーションのコツ>

一般的な分類の仕方についてはこの後やっていくので、ここでは子どもたちに自由にまとまりを考えさせましょう。机の上で並べ替えるだけだとそれぞれのまとまりが何のまとまりなのか分かりづらくなってしまいますので、周りに書き込みができるよう、模造紙かホワイトボードの上で分類作業をさせると進めやすいと思います。

<配布物>

- ・ 模造紙：1枚/島
 - ・ 水性マジック：1束/島
- (※ホワイトボードがあれば上記代用可能)

基本の分け方はこれ！

「まち」によって色々な分け方がある

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.

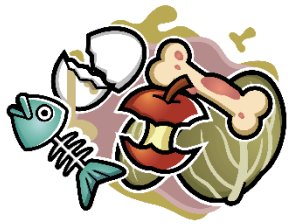


<スライドの位置づけ>

一般的なごみの分類の仕方を紹介し始めるスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

具体的な内容は次のスライドに書いてあるため、ここでは「基本的な分け方がある」ということと、「まちによって分け方が少し異なる」ということを伝えられればOKです。前スライドのワークにおいて、グループごとに分類の違いが出た場合は、「こうやって人によって分け方が違ったら不便だね。」などと解説すると、流れが良いと思います。



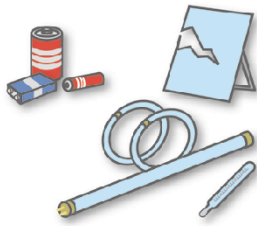
生ごみ



資源ごみ



燃えないごみ



燃えるごみ

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

一般的なごみの分類の仕方を解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

それぞれを聞いたことがあるかを問いかけた上で、それぞれに該当するものを答えてもらうように進めると進行しやすいと思います。「燃えるごみって、どんなごみがある（当てはまる）かな？」などと全体に聞いて発言を促すことで、全体の認識レベルを揃えていきます。

この4つの分類に分け直してみると？

「生ごみ」 「資源ごみ」
「燃えないごみ」 「燃えるごみ」

わからないものは分類表を見てみよう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

(先ほどの分類ワークを受けて) 4つのカテゴリにごみを分類し直してみるワークのスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

前の分類方法も尊重しつつ進めていきましょう。模造紙の裏やホワイトボードに4つの分類(箱)を書き込んで、その箱の中に付箋を入れていくイメージで作業を進めていきましょう。中には判断の難しい「ごみ」もあるので、質問に答えたり分類表を見せたりして対応しましょう。

<配布物>

- ・ごみ分別表 : 1枚/島

PART2

ごみの●●に挑戦！

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみを計測する」パートに入っていくスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「これからの期間で、みんなにはごみで“あること”にチャレンジしてもらいます！」とワクワク感を煽るイメージで入っていきましょう。ワークショップの中でやることは「計測の仕方」ですが、その前に今後のミッションを発表してから「計測」の内容に入っていきます。

ごみの基本を理解したところで ミッション発表！

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

ミッションを発表するための振りのスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「何だと思う？」などと軽く考えさせてみるのも良いでしょう。発言があれば、それらを拾った上で次のスライドに進んで発表します。

ミッション

ごみゼロ生活に挑戦！

どれだけごみを減らせるだろうか？

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

これからの期間のミッションを発表するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

「難しそうだけど、面白そう！」という雰囲気うまくつくれるよう心がけて発表しましょう。「この教室じゃなくて、みんなの普段の生活の中で挑戦してもらいます！」と位置づけを伝えつつ、挑戦意欲をうまく引き出していきましょう。



驚異のごみゼロ生活



あなたひとりではじめられる、
ささやかで
楽しい革命です



家族4人、
1年間のごみは
たったこれだけ!

anemumaki.jp



世界10ヵ国
以上で翻訳され
大反響!

ジョンソンさんの家は
家族4人で1年間のごみが
たったこれだけ

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.

参考：ベア・ジョンソン著『ゼロ・ウェイスト・ホーム』



<スライドの位置づけ>

「ごみゼロ生活」を実践している人（と本）を紹介するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

前パートで触れた「1日1人の平均ごみ量＝約1kg」ということを引き合いに出しながら、「1年間でこれだけって、驚きだよな！」と子どもたちと驚きを共有しながら進めると良いでしょう。その上で、「でも、実際にやっている人がいるんだから、みんなも挑戦できるはず！」と盛り上げていきましょう。

<参考情報> 『ゼロ・ウェイスト・ホーム』

カリフォルニア在住のフランス人女性ベン・ジョンソン氏による、シンプルでモノを持たない暮らしの実践を紹介した書籍。「台所と買い物」「仕事部屋」「子育てと学校」「外食・旅行」など生活のシーンごとに紹介される実践的なアイデアには、さまざまな角度から暮らしを変えていくヒントが散りばめられている。「リフューズ（断る）」「リデュース（減らす）」「リユース（繰り返し使う）」「リサイクル（資源化する）」「ロット（堆肥化する）」という5つの基本ステップをもとに、生活のシーンごとに実践的な取り組みが紹介されている。



Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.

参考：ベア・ジョンソン著『ゼロ・ウェイスト・ホーム』



ごみゼロ生活 どう思う？

いい？悪い？
楽しそう？つらそう？
やってみたい？
気になる？

<スライドの位置づけ>

「ごみゼロ生活」について、子どもたちの考え・印象を問うスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

スライドに記載された観点を中心に、全体に対して「いいと思う人〜？」...などと問いかけてみましょう。それぞれについて手を挙げてもらうようなファシリテーションでも良いと思います。次に映像視聴を控えているので、あまり時間をかけずにテンポよく進めて構いません。

ごみゼロ生活

実際に映像でちょっと観てみよう 何が自分たちと違うかな？

<https://youtu.be/y583QTbetsQ>

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

映像を視聴し、「自分たちと何が違うか？」を考えるためのスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

まずは、記載されたURLの映像を流しましょう。それを視聴した上で、「みんな（の生活の仕方）と何が違うのかな？」と全体に問いかけてみましょう。あまり発言が上がらなければ、「この映像を観てみて、どんな感想かな？」と感じたことを言葉にしてもらえるようにファシリテーションしてみましょう。

最初のステップ (今回の宿題)

1週間分のごみ量を きちんと計測してこよう

ごみゼロ生活に挑戦する前の普段の状態

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみゼロ生活」を目指す最初のステップとして、今回の宿題を解説するスライドです。

<伝えたいメッセージ>

「まずは、今どうなっているのかを知ることが大切！」

「きちんと今の状況を計測できないと、目標を達成することはできないよ！」

<ファシリテーションのコツ>

上記のメッセージをしっかりと伝えることが重要です。ただ宿題として伝えるのではなく、その後のステップをイメージさせるよう心がけましょう。最後に改めてこのスライドを掲示するので、ここでは詳細に触れる必要はありません。

どうすればごみを 正確に測れる？

明日からどうすればいいかな？

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみを正確に測るためのポイント」を考えるスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

スライドの通り問いかけてみた上で、あまり考えが進まないようだったら、逆質問をすると良いと思います。「どうやって測ったら、正確じゃなくなっちゃうかな？」「どんな測り方はマズいかな？」などと聞くと何らかの発言が出てくると思います。「数値化」と「単位」というキーワードをイメージしながらファシリテーションすることを心がけましょう。

測り方を決める

昨日と今日で違う測り方だったらわからない
(駄目な例：いっぱい、少なめ)

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

前スライドの考察の答えを一言で伝えるスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

次のスライド以降で具体的な内容を解説していくため、ここでは「一言で言うと」に絞って解説するようにしましょう。「測り方が違うと、うまく比べられなくなっちゃう!」ということ伝えて理解してもらった上で、「昨日は1つ2つって数えてたのに、今日は1キロ2キロって数えちゃったとしたら、どっちが多いのか分からなくなっちゃうよね(単位の問題)」ということと、「いっぱいとか少なめとかだと、聞いた人はどれくらいなのか分からなくなっちゃうよね(数値化の問題)」ということの2点に触れておくと、次のスライド以降の流れが良いと思います。



測り方①

個数を数える

ビンや缶など資源ごみは測りやすい！

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみを正確に測るためのポイント」の1つ目を解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

個数で数えると分かりやすいものとして、ビンや缶などの「資源ごみ」を紹介します。「他に個数を数えるのが測りやすそうなものってあるかな？」などと子どもたちに聞いてみるのも良いと思います。



測り方②



重さを測る

小さいものは「はかり」に乗せる

大きいものは一緒に「体重計」に乗って測る
(「ごみ+自分」の重さから「自分」の体重を引く)

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみを正確に測るためのポイント」の2つ目を解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

具体的な測り方として、スライドに記載した2つの方法を紹介します。算数好きな子には、体重計に乗る方法は知的好奇心をくすぐるポイントかもしれません。



測り方③

大きさを測る

どの大きさの袋を使っているか要チェック！
(大体「〇〇リットル」と袋に書いてある)
(生ごみはおなじ大きさの小さい袋で測ること)

袋がどれくらいいっぱいかを測る： $\triangle\triangle\%$
(10%ごとで大体でオッケー)

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみを正確に測るためのポイント」の3つ目を解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

算数が不得意な子は混乱しやすいところなので、いくつか具体例を出せると良い場面です。たとえば、「40Lのごみ袋に半分くらいのごみが入っていたら、 $40L \div 2 = 20L$ と計算できるよね！」などと板書しながら解説すると分かりやすいと思います。

測り方を 練習してみよう

教室のごみでちょっと練習！
(器具はあると仮定して)

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

ごみの測り方を練習するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

教室にあるまとまったごみを材料にして、全体でやってみながら「これだったら、どうやって測るのがいいかな?」「〇Lの袋に△%入ってるから...」などと子どもたちのワークをサポートしながら、いくつか実践してみてください。

家のごみ量を 予測してみよう

自分の家で1週間にごみはどれだけ
出ているだろう？何が多いだろう？

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

自分の家のごみの量を予測するワークに入るスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

スライドに記載された問いかけを行いながら、次のスライドへ進んでいきましょう。

| ごみ予測シート（自分の家で多そうなおみ BEST3） | |
|--|---------------|
| 多そうなおみ Best1 | なぜそのごみが多いと思う？ |
| 多そうなおみ Best2 | なぜそのごみが多いと思う？ |
| 多そうなおみ Best3 | なぜそのごみが多いと思う？ |
| 名前 _____ | |
| <small>Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.</small>  | |

<スライドの位置づけ>

『ごみ予測シート（自分の家で多そうなおみBEST3）』の書き方を解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

次のスライドにある『ごみ予測シート詳細（1週間分の家庭ごみ）』と合わせて解説してください。まずは、本スライドのシートを配布し、考えてほしいこと（＝記入欄の内容）を説明します。その次に、具体的に多そうなおみを予測するために、次のスライドのシートを配布します。2枚のワークシートを配布した上で、個人ワークに入るようにしましょう。また、記入の順番は、考えやすさに個人差があるところなので、先に3つのごみを挙げる子と1つずつ多いと思う理由を考える子それぞれがいて構いません。

<配布物>

- ・『ごみ予測シート（自分の家で多そうなおみBEST3）』 : 1枚/人
- ・『ごみ予測シート詳細（1週間分の家庭ごみ）』 : 1枚/人

ごみ予測シート詳細（1週間分の家庭ごみ）

| 分類 | 中身：どんなものがあった？ | 測り方 | 計測値① | 計測値② |
|---------|---------------|-----------------------------|-----------------------------|------|
| ①生ごみ | | ① 袋の大きさ・数と 詰まり具合 ② 重さ | 袋の大きさ 袋の数 個分 | グラム |
| ②燃えるごみ | | ① 袋の大きさ・数と 詰まり具合 ② 重さ | 袋の大きさ リットル袋 袋の数 個分 | グラム |
| ③燃えないごみ | | 個数 | 個 | 個 |
| ④資源ごみ | 雑紙（新聞・雑誌・広告等） | 積んだ時の高さ | センチ | 個 |
| | ダンボール | 個数 | 個 | |
| | ペットボトル | 本数 | 本 | |
| | 缶 | 本数 | 本 | |
| | 瓶 | 本数 | 本 | |
| | 紙パック（牛乳等） | 個数 | 個 | |
| | 食品トレー | 個数 | 個 | |
| | プラごみ（プラマークあり） | 個数 | 個 | |

名前

Copyright © kaeru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

『ごみ予測シート詳細（1週間分の家庭ごみ）』の書き方を解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

前スライドと並行して解説を進めていきます。このシートに関しては、左の欄から順番に解説していきましょう。まずは「分類」欄について、前のパートで提示した4分類で分けられていること。次に「中身」欄について、①～③の欄はどんなものがありそうか考えて記入すること。次に「測り方」欄について、どの単位で測るかの目安が書かれていること。最後に「計測値①②」欄について、具体的に予測して数を記入することを説明します。比較的細かいワークシートなので、個人ワークに入ってから書き方を悩んでいる子を見つけながら、フォローするように心がけましょう。

お互いの家のごみ について話し合おう

なんで〇〇のごみが多い？少ない？

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

記入した2枚のシートをもとにして、お互いの家のごみについて話し合うスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

基本的には『ごみ予測シート（自分の家で多そうなごみBEST3）』をお互いに見せ合いながら、グループ内で1人ずつ発表していきます。「聞く人は、『なんで多いんだろう？』と考えながら話を聞こう！』と聞き手のスタンスについても触れておくといいでしょう。

今回の宿題

1週間分のごみ量を きちんと計測してこよう

ごみゼロ生活に挑戦する前の普段の状態

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ごみゼロ生活」を目指す最初のステップとして、今回の宿題を解説するスライドです。

<ファシリテーションのコツ>

すでに一度話している内容なので、ここでは宿題の具体的なやり方にフォーカスして解説を進めるようにしてください。先ほどの『ごみ予測シート詳細（1週間分の家庭ごみ）』と同じ項目で書かれた次のスライドのシートを配布して、この項目で家庭のごみを“正確に”計測してくるように指示します。また、これはごみゼロ生活の「準備」としての取り組みなので、「普段の状態」を計測するように明確に指示をしましょう。

ごみ計測シート（1週間分の家庭ごみ）

計測期間

～

| 分類 | 中身：どんなものがあった？ | 測り方 | 計測値① | 計測値② |
|---------------|---------------|-------------------------|-----------------------------|-------|
| ①生ごみ | | ① 袋の大きさ・数と詰まり具合 ② 重さ | 袋の大きさ 袋の数 個分 | グラム |
| ②燃えるごみ | | ① 袋の大きさ・数と詰まり具合 ② 重さ | 袋の大きさ リットル袋 袋の数 個分 | グラム |
| ③燃えないごみ | | 個数 | 個 | 個 |
| ④資源ごみ | 雑紙（新聞・雑誌・広告等） | 積んだ時の高さ | センチ | [黒塗り] |
| | ダンボール | 個数 | 個 | |
| | ペットボトル | 本数 | 本 | |
| | 缶 | 本数 | 本 | |
| | 瓶 | 本数 | 本 | |
| | 紙パック（牛乳等） | 個数 | 個 | |
| | 食品トレー | 個数 | 個 | |
| プラごみ（プラマークあり） | 個数 | 個 | 個 | |

名前

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

『ごみ計測シート（1週間分の家庭ごみ）』について解説するシートです。

<ファシリテーションのコツ>

前スライドに記載の通りです。

<配布物>

- ・ 『ごみ計測シート（1週間分の家庭ごみ）』 : 1枚/人

今日のふりかえり

「学んだこと（＝発見・気づき）」
「今後へ活かしたいこと」を
ふりかえりシートに書こう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

「ふりかえり」セッションへの導入スライドです。


<伝えたいメッセージ>

「楽しんだ後は、どんなことを発見したか、どんなことに気づいたかをちゃんと振り返ることが大切！」

「ふりかえりをすると、今までできなかったことがどんどんできるようになっていくよ！」

<ファシリテーションのコツ>

上記のメッセージをシンプルに伝え、ふりかえりの方法は次のスライドを使って解説しましょう。

| | | | |
|--|----------------------------------|----------------|--|
| 環境 | 1ヶ月の目標（環境ワークショップが終わった時に達成していたこと） | | 名前 |
| 毎週のふりかえり | | | |
| 月 日 | 今日の授業で何を学んだ？（＝発見・気づき） | 今後へ何を活かしたいか？ | |
| 月 日 | 今日の授業で何を学んだ？（＝発見・気づき） | 今後へ何を活かしたいか？ | |
| 月 日 | 今日の授業で何を学んだ？（＝発見・気づき） | 今後へ何を活かしたいか？ | |
| 月 日 | 今日の授業で何を学んだ？（＝発見・気づき） | 目標はどの程度達成できたか？ | |
| Copyright © kaoru+project All Rights Reserved. | | |  |

<スライドの位置づけ>

『ふりかえりシート』の書き方を解説するスライドです。

<進め方>

- (1) 『ふりかえりシート』が配布されたら、まず一番右にある縦長の欄に「自分の名前」を書く。
- (2) 一番上の欄に、「環境ワークショップが終わった時に達成していきたいこと」を考えて書く。
- (3) “毎回のふりかえり”の最上段に今日の日付を書いて、その横に「学んだこと（＝発見・気づき）」と
「今後活かしたいこと」を書く。
- (4) 大切に保管する。（※シリーズを通して、このシートに書き足していく。）

<ファシリテーションのコツ>

上記の進め方をしっかりと指示しましょう。筆が進んでいない子どもがいたら、「○○したら、うまくいったじゃん！」などと助け舟を出してあげましょう。

<配布物>

- ・『ふりかえりシート』 : 1枚/人

【ポイント】

身の回りのことから
じっくり考えよう

測り方を工夫して
「事実」をきちんと計測しよう

Copyright © kaoru+project All Rights Reserved.



<スライドの位置づけ>

最後のまとめのスライドです。

<伝えたいメッセージ>

「（環境について考えるときは）まずは、身の回りのことからじっくり考えよう！」

「事実をきちんと計測するためには、測り方を工夫しよう！」

<ファシリテーションのコツ>

上記のメッセージを強く伝え、次回へのポジティブな熱量（楽しい雰囲気）を保ってワークショップを終了していきましょう。最後に、改めて宿題について発破をかけても良いと思います。